

加速する請求業務の自動化

求められる
「**経理業務**」の
変革とは？



目次

◎ 進化する経理の仕事

- ・ 経理の仕事ってどんなもの？
- ・ コンピュータを活用した会計処理の普及
- ・ ソフトウェアのさらなる進化と、業務自動化の時代

◎ 経理は次の時代へ

- ・ 多くの仕事がコンピュータによって自動化される?!
- ・ ソフトウェアのさらなる進化により、経理は次の時代へ
- ・ 自動化に拍車をかける、クラウドコンピューティング

◎ 請求業務もデジタルシフトで自動化に

- ・ 記帳や簿記に加えて、請求業務も自動化していく
- ・ 請求、課金、消込、催促を自動化するクラウド「経理管理ロボ」

◎ これからの経理と企業が目指すべき姿

- ・ DX時代へ向けて、経理担当が心がけるべきこと
- ・ 経営者は社内を常に見渡して、ルーチンワークを減らす責任がある!

経理とは？

経営判断の要である「お金の管理を行う」

＝ ミスが許されない

日次



現金管理
預金管理
請求書管理
資金繰り管理
各種支払い

月次



売掛・請求管理
買掛・支払管理
経費精算
給与支払い

年次



確定申告
年末調整
年次決算処理
開示資料作成

経理の仕事は、日次、月次、年次の処理というように仕事が分類されますが、最終的には決算書の作成を目的とし、1年を通じて資金の変動と帳簿を一致させ、会社の資金の動きがどのように処理されているかを正確に把握し記録するのが経理と呼ばれる仕事です。

毎日、毎月、同じ作業の繰り返しになりますが、ミスが許されない仕事です！

コンピューターを活用した会計処理の普及

かつて、会計ソフトが無かった時代の経理の仕事は本当に大変なものでした。日々の仕訳を漏れなく記録した上で、それを間違いなく複数の帳簿に次々と転記していくという目の回るような仕事でした。

しかし、1990年代のパーソナルコンピュータの普及以降は、会計システムを活用して会計処理をすることが一般的となりました。コンピュータと併せて会計ソフトウェアも安価に導入出来るものとなった結果、昨今の経理担当者は従来の会計の知識に加えて、自社にふさわしい会計ソフトウェアを選定して導入したり、それらを使いこなして日々のお金の流れをシステムに記録していく能力が求められるようになりました。

会計システムの導入により、複数の帳簿への転記を行う必要性がなくなった経理の担当者は、帳簿をつけるスピードが飛躍的に向上を実現し、資金繰り表の作成や売上分析といった業務を素早くに行うことが出来るようになりました。時間に余裕も生まれ、今まで会計処理だけに時間を取られていた経理担当者の仕事の幅は広がってきたと言えます。

ソフトウェアのさらなる進化と、業務の自動化の時代

そして、現代は業務自動化の時代とされています。業務を軽減するだけではなく、それぞれのプロセスを繋ぎあわせて連続処理することにより、人々の業務は自動化され、さらに軽減されていきます。

パーソナルコンピュータが1990年台に発売してからわずか20年ほどの間に、次々と開発された業務用のソフトウェアは競合同士のしを削りながら進化を続け、次第に人々の仕事を楽にしてきました。

そしてこれから、人間の仕事が、コンピュータに奪われる時代が訪れると言われています。産業革命以降、家電製品が主婦の仕事を減らしてきたように、ホワイトカラーの労働者の仕事の中でもルーチンワークを皮切りにコンピュータに仕事を任せる時代が始まっています。

多くの仕事がコンピュータによって自動化される?!

国内でも多くのメディアにも取り上げられ非常に話題になった、2014年にデロイトとオックスフォード大学の調査によると、“**イギリスにおける1/3の仕事は次の20年で自動化されるリスクに晒されている。**”（引用元“[One-third of jobs in the UK at risk from automation](#)”）とされています。その興味深い調査結果の一部を抜粋してみました。

- 英国の既存の仕事の35%が自動化されるリスクが高い。
- 年収3万ユーロ以下(日本円で400万程度)の仕事は、年収10万ユーロ(日本円で1,300万円)の仕事に比べて5倍自動化されやすい。「持てる者」と「持たざる者」の格差がより広がる。
- 技術革新は、機会を創造すると同時に課題を生み出し、今後10年で雇用に大きな変化をもたらす。
- 今後10年で従業員に求められるようになるスキルは、「デジタルの知識やノウハウ」「経営能力」「クリエイティビティ」であり、逆に「事務的な仕事」「支援業務」「外国語」のスキルの必要性は少なくなっていく。

引用(当社により和訳しています)

もし、興味のある方は原文も読んでみてください
[原文“THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?”](#)

ソフトウェアのさらなる進化により、経理は次の時代へ

紙と鉛筆で経理作業を行っていた時代から、パーソナルコンピュータを活用して経理作業が軽減された現代、さらにAI等のテクノロジーによって簿記や記帳の業務が自動化され、新しい時代が始まったと言えます。

進むクラウド会計の導入

大企業と比べると、会計のルールが少ない中小企業をターゲットとした商品が先に普及しています。“クラウド型会計ソフト”と呼ばれる市場ですが、2019年、この市場のシェアは、弥生会計、Freee、MoneyForward の3社がシェアを占めています。これらのサービスでは、「インターネットバンキングと連携して出納データを自動で取り込む」や「日々の会計仕訳のパターンを記憶して二度目以降の仕訳を自動的に行う」といった会計の自動化機能が開発されて、クラウド会計ソフトの導入がどんどん増えています。

【図表2】会計ソフトの利用形態 (単一回答)

	2018年3月調査		2019年3月調査	
	個人事業主数	比率	個人事業主数	比率
クラウド会計ソフト	711	14.7%	791	18.5%
PCインストール型会計ソフト	3,653	75.5%	3,095	72.3%
分からない	477	9.9%	396	9.8%
合計	4,841	100.0%	4,282	100.0%

出典元：株式会社MM総研「クラウド会計ソフトの利用状況調査」

自動化に拍車をかける、クラウドコンピューティング

新しい業務アプリケーションの普及はクラウドシステムの普及があつてこそ、と言えます。

提供する企業の側は、もはや高価なサーバーを維持するために途方も無い費用を支払う必要はありませんし、サーバーのセットアップやハードウェア障害に悩まされることなく、ソフトウェアをより良いものにすることに集中することが出来るようになりました。

導入する企業の側も、素晴らしい業務システムがウェブブラウザからすぐに導入でき、設備投資を行うことなく、無料や非常に安価な料金で活用することが出来ます。しかも使いたい期間だけお金を払って利用でき、今使っているものより良いものが流通すればすぐに乗り換えることさえ可能です。従来のように家電量販店でパッケージを購入してきたり、多額のシステム投資を行って開発した自社専用のシステムを我慢しながら10年以上も使い続ける必要はもはやありません。

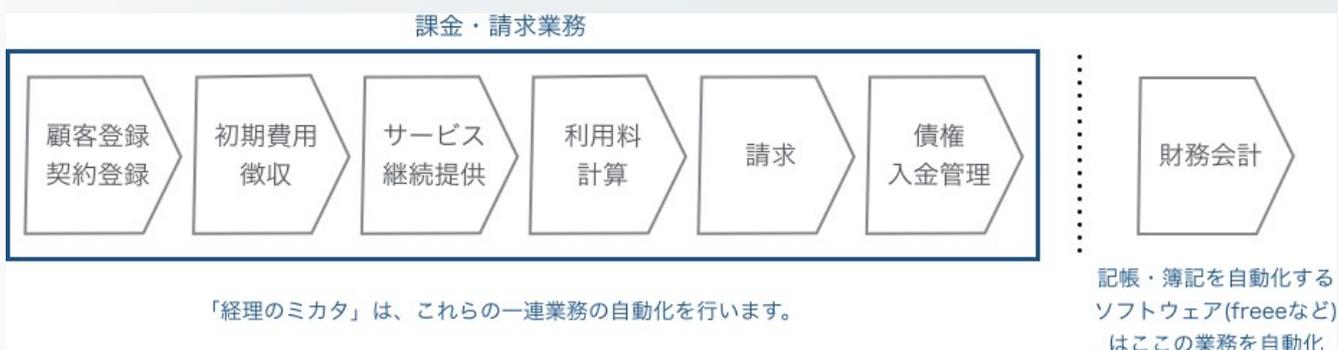
前ページ記載のfreeeは、無料から使えるなど、創業間もない企業のニーズをうまく市場を取り込み、2013年3月のサービス開始から2018年には導入企業数が100万事業者を突破し、2019年12月の上場を果たしました。パッケージを買ってきてインストールして活用する時代であれば、このように企業の業務の根幹を担うシステムの領域で1つのシステムが爆発的に流通することは起こりえなかったことです。クラウドにより、ますます会計業務は自動化の歩みを進めます。

記帳や簿記に加えて、請求業務もデジタルシフト

記帳や簿記の分野を自動化するクラウドが普及したと述べましたが、それ以外の仕事も自動化していきます。DX時代の到来によって、人間がやらなくていい仕事は次々とデジタル化されていきます。DXとは「われわれ人間の生活に何らかの影響を与え、進化し続けるテクノロジーであり、その結果、人々の生活をより良い方向に変化させる」という概念です。ビジネスに場を移すと「デジタルに変換する」と言い換えられます。

DX時代を迎えた中で、記帳や簿記の仕事に続いて、経理が手動で行う必要がなくなる仕事=デジタルに変換できる仕事はなんのでしょうか？

ROBOT PAYMENTでは、課金・請求業務におけるルーチンワークの多さに着目し、請求書の発行・送付、課金、消込、催促までを自動化するというコンセプトの元に「請求管理ロボ」というサービスを提供しています。



さらに、もともと決済代行会社である強みを活かし、課金の形態が銀行振込だけでなく「クレジットカード決済・口座振替・コンビニ決済」など複数手段を取り揃えることにより、様々な業種・業態の課金に対応しています。

デジタルシフトで、経理担当が心がけるべきこと

すでにアメリカでは、この5年以内で既に会計士・税理士の人口が数万人単位で減少したと言われています。今後もコンピュータの能力向上は進み、マニュアル化しやすい仕事から順番に人工知能に代替されていきます。あと数年もすれば、簡単な記帳の仕事はシステムが正確に自動的に処理することが一般的になるでしょう。現実を目の当たりにして、経理の業務に関わっている方は、ただ嘆くだけでなく、今後も真に求められるスキルを身につけることに集中する必要があります。「経理業務」に変革が求められているのです。

もはや、経理と呼ばれる仕事は存在しないのかもしれない

これまで経理部門は、帳簿担当・買掛や売掛担当・給与担当・請求担当などと細分化されていましたが、さらなるツールの進化に伴い組織がスリム化するはずです。ツールを一足早く使いこなして更に多くの領域の仕事をこなすことはもちろん、更なる付加価値を出して行きましょう。

- ✓ 管理会計の導入により企業的意思決定へ参画する
- ✓ 節税対策のプランを組み立てる
- ✓ 税務リスクの判断を行う
- ✓ キャッシュ・フローを安定させる動きをする
- ✓ BIツールの導入(同じく安価になっていきます)による経営の見える化を行う

など、多くの企業がやりたいのに上手く出来ていない、もしくは内省化できていない仕事は数多くあるはずです。一日も早くテクノロジーを使いこなす側に周り、自分の仕事を減らした上で高度な仕事に取り組んでいきましょう。

経営者は社内を常に見渡して、ルーチンワークを減らす責任がある!

企業経営者は、経理担当に無駄なルーチンワークをさせるのをやめるべきです。経理に限った話ではありませんが、社員にはルーチン作業を徹底的に減らすように教育していく責任があると言えます。もちろん、すぐにルーチン作業をゼロにすることなど出来るはずはないですが、この仕事は無くす事ができないかという思考習慣を組織に植えつけていきましょう。そのためにはぜひ、業務をデジタル化できるものは変えていく、DX時代に合った経営を実践していきましょう。

デジタル化することにより

- データが見える化し、迅速な経営判断を実現できる
- 人が介在しないことによりミスを減らし、クレームが無くなる
- 余計な固定費が無くなる
- コア事業へリソースを集中することができる

など、良いことが盛りだくさんです。

企業の利益と社員の幸福を同時に追求しましょう

経営者は常に社会情勢や最新のテクノロジーについて積極的に情報を集め、最新のテクノロジーを活用すると、どのようなことができるのか理解しておく必要があります。これからのDX時代は、世間で言われている通り徹底したIT経営を実践していかなければ勝てません。競合企業はあなたの会社より、社内リソースを効率的に運用し、賢く勝負してきます。また、現代の若者は職場を選ぶ際に「将来失業しないスキルを身に付けることができるかどうか」を非常に重要視するようになってきています。優秀な人材を確保し、辞めずに働いてもらうためにも経営者は自らテクノロジーカンパニーの体現へ向けて舵を切りましょう。

株式会社ROBOT PAYMENTは、ペイメント事業、フィナンシャルクラウド事業を提供している企業です。フィナンシャルクラウド事業では、オンライン決済の技術を活かした、請求管理クラウド「請求管理ロボ」を提供し、企業の生産性向上、収益向上、キャッシュフロー改善を通じてお客様の成功を実現します。

■ 請求管理クラウド「請求管理ロボ」

請求・集金業務を管理・統合・自動化するクラウドサービスです。企業ごとに独自のプロセスを持つ請求・集金業務のパターンをロボットが認識・学習し、オートメーション化を実現。業務を効率化し、収益向上、資金繰りの改善に貢献することで、カスタマーサクセスを実現します。

<https://www.robotpayment.co.jp/service/mikata/>



お問い合わせ先

会社名: 株式会社ROBOT PAYMENT
所在地: 150-0001東京都渋谷区神宮前6-19-20 第15荒井ビル4F
連絡先: 03-5469-5784

公式サイト

<https://www.robotpayment.co.jp/service/mikata/>